

# 千葉県 NEWS

CHIBA CANCER CENTER NEWS

## がんセンターニュース



第32号  
平成28年3月1日発行  
発行:千葉県がんセンター

### 理念

心と体にやさしく、希望の持てるがん医療

私たちは一人でも多くの患者さんに  
質の高いがん治療を提供します。

## 患者と医師のコミュニケーションの基盤

千葉県がんセンター病院長 永田 松夫



私たちが進めている改革の柱のひとつは、患者の自己決定を支援する説明と同意（インフォームド・コンセント）です。患者が事前に、がんの告知を含め十分説明を受け、納得した上で治療を受けることはいまや当然のことです。医師の患者への説明

は、ひと昔前に比べずっと長い時間をかけるようになりましたが、その分患者と医師は十分わかり合えるようになったのでしょうか？

患者と医師はコミュニケーションをとりながら、がんという病気の中心に狙いを定めて戦いを進めていきます。そして、ともにがんと戦う絆が生まれ、次第に信頼関係が生まれてくるものだと思います。患者にとって、自身の生命にかかわる問題についての医師とのやりとりは、どんなに近しい、親しい人間関係でもあり得ない、特異で重い関係とっていいのではないのでしょうか？ この大事な関係の中ではコミュニケーションは制限なく自由に行われる必要がありますが、そのためには、互いに礼儀を守った関係でなければならないと思います。あくまでも患者は医師を頼りにする良識をもった「〇〇様」であり、医師は患者のために尽くす献身的な「〇〇先生」であるという、お互いに敬意をもち、礼を尽くす気持ちが基盤にあるべきだと思います。その基盤の上に、患者はなんでも話

せる、医師はなんでも質問できる関係ができると考えます。患者の顔を見ないで話す、患者が理解できるかどうか気にせずにはやたらに専門用語を使う、上から目線の言葉づかい、タメ口、患者の質問を遮る、的外れの質問を冷笑する、姿勢が悪い、身だしなみがきちんとしていない、などは礼儀を失った医師の態度になるでしょう。

患者は大なり小なり、夢うつつの中で医師の説明を聞いたように感じるものです。あとでいくら思い出そうとしても、説明された内容が全然浮かんで来ない、ということがあるのです。医師は説明したはずだと言い、患者は聞いていないと言う、例のよくあるパターンになるのです。それを防ぐためには、少しでも重要と考えられる説明では、ポイントを記載した記録を患者にお渡しして、保存しておく必要があります。患者は帰ってからその記録を読むことで、説明された内容が系統的に思い出すことができる、とよく言われます。

些細なことで信頼関係が崩れると、いくら修正しようとしても決して元には戻ることはありません。元に戻そうと努めるプロセスは加わりますが、元どおりにはなりません。医療がまったくわからない素人にも心から納得できる説明ができないようでは医療のプロとはいえません。礼儀を守りつつ、なんでも言い合える自由なコミュニケーションの場をつくり、患者・医師間に良好な信頼関係が生まれる千葉県がんセンターにしたいと思います。

# 臨床の現場から

## 化学療法は通院で行う時代

外来化学療法科 辻村秀樹

**が**ん化学療法の主力は、「抗がん剤」です。抗がん剤というと悪いイメージを持つ方が多いと思います。確かに抗がん剤だけで治る病気はまだ少なく、多くの副作用を避けることができません。しかし、最近では分子標的薬に代表される新しい治療法が次々と開発され、治療成績は向上しています。さらに支持療法という、副作用を軽くする技術も進歩していることから、化学療法を受ける患者さんの約80%が通院で安全に治療を実施できるようになりました。つまり、「日常生活を営みながら化学療法を受ける」時代になったのです。

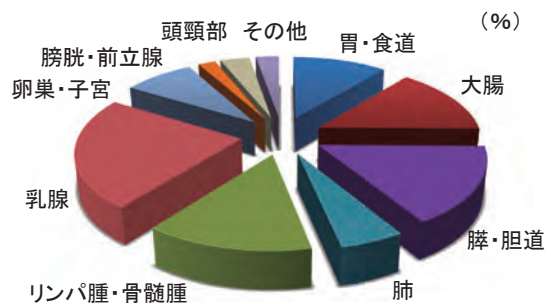
ただし、抗がん剤の種類は増え続け、治療内容は臓器ごとに細分化され高度になっています。これに対応できなければ十分な効果を引き出すことはおろか、安全に治療を継続することもできません。したがって、化学療法に関する知識や経験が豊富な医師、看護師、薬剤師が揃い、かつチームとして機能していることが大切です。

千葉県がんセンターの外来で行われる化学療法の件数は、一日平均約70件です。これは全国でもトップレベ

ルの規模であり、対象はあらゆる臓器・領域を網羅します。(図)。そしてそれらは、通院化学療法室という専用のユニットで一括して行われます。私たちはこの中央部門としての特性をフルに利用し、患者さんが安心できる治療の提供を心がけています。まず、注射薬の用量や速度などの投与方法が最適となるよう、電子カルテの専用アプリを駆使して中央管理しています。この仕組みは、誤投薬や過剰投与などの事故の予防にも結びついています。さらに、自宅で起こる副作用を最小限にするため、十分な時間をかけた説明とアドバイスを行っています。また、起きてしまった副作用のモニターも行い、集めたデータからより優れた対策の開発を行っています。

このように、私たちスタッフは患者さん一人ひとりの治療方針を理解し、時には患者さんの気持ちや生活の状況にも配慮しながら治療を進めています。

対象疾患



## 第5回 心と体総合支援センターシンポジウム

平成28年2月6日(土)午後1時から、京葉銀行文化プラザにて「どうしたら伝わる?～患者と医療者のコミュニケーション」をテーマに「第5回心と体総合支援センターシンポジウム」が開催されました。永田病院長によるあいさつの後、国立がん研究センター東病院呼吸器外科の吉田純司先生に「限界を踏まえて手を携える」と題して、医師の発言内容の意図や医療者と話すときに知っておいたほうが良いことなどについて講演いただきました。がん患者さんとそのご家族、医療関係者など約150名が参加され、メモを取りながら熱心に講義に耳を傾け、時間ぎりぎりまで質問があがりました。

後半のパネルディスカッションでは、来場者の方から寄せられた質問票にお答えしながら、吉田先生、当センターの医師と看護師、そしてがん経験者とがん相談員が、「患者・医療者それぞれの立場から言いたい事を相手にどのように伝えればいいのか」について討論しました。来場者の方にもアナライザーシステム(各々の回答を自動集計するもの)を使って討論にご参加いただきました。

不確実なことが多い中でいかに患者さんと医療者が手を携えていくことが大切であるかをそれぞれの立場を超えて理解する良い機会となったとともに、来場者の方から「患者さんの立場のパネリストの方の声がかけて良かった。」「アナライザーシステムによる参加型のシンポジウムは意義があった。」などのご意見もいただき、有意義なシンポジウムになったと思います。



## 地域医療連携室だより

### 患者誤認防止の取り組み

～地域医療連携室における借用病理検体の管理～

**千**葉県がんセンターでは、患者さんの診療にあたり、他病院から借用する病理検体の受付・管理を、地域医療連携室が一元的に行っています。また、同時に患者誤認防止にも取り組んでいます。

病理顕微鏡標本（プレパラート）や組織片などの病理検体は、患者さんが直接お持ちになる場合と、おかけの医療機関から郵送される場合があります。1か月に約100件借用しています。それに対し、受付業務を中央化し、一括管理することにより、次の利点があります。

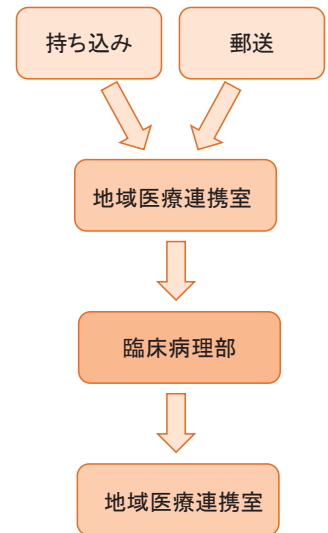
- ①受付から病理検査室までのルートが一本化される
- ②人から人へ検体の手渡し回数を最小限にできる
- ③手渡しによる患者取り違いリスクを避けられる
- ④借用検体の所在を把握できる

借用病理検体管理の流れ（図）の中で、特に注意しているのは、地域医療連携室に届けられた時と臨床病理

部に届ける時の患者誤認防止作業です。地域医療連携室に検体を運搬したスタッフと受付をするスタッフが一緒に、検体と検査申込書の患者さんの名前に間違いがないことを必ず確認します。地域医療連携室内でも、検体と検査申込書等の患者名を複数のスタッフで確認してから、臨床病理部に届けます。診断後の検体は、再び地域医療連携室から、持ち込まれた時と同じ過程を経て、借用した医療機関へ返却しています。また、借用病理検体管理の担当者は管理業務に専念することとしており、作業中断による患者誤認や取り違いの人為的ミスを予防しています。

患者誤認防止は、地域医療連携においても重要です。当センターでは、今後もより一層の安全確保に取り組んでいきます。

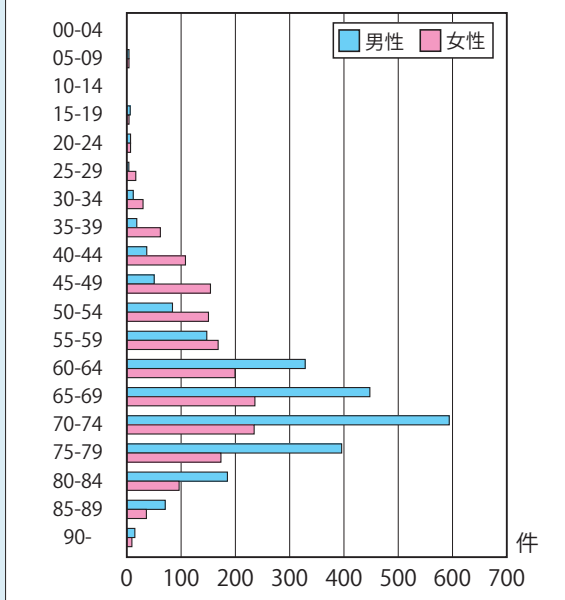
#### 借用病理検体管理の流れ



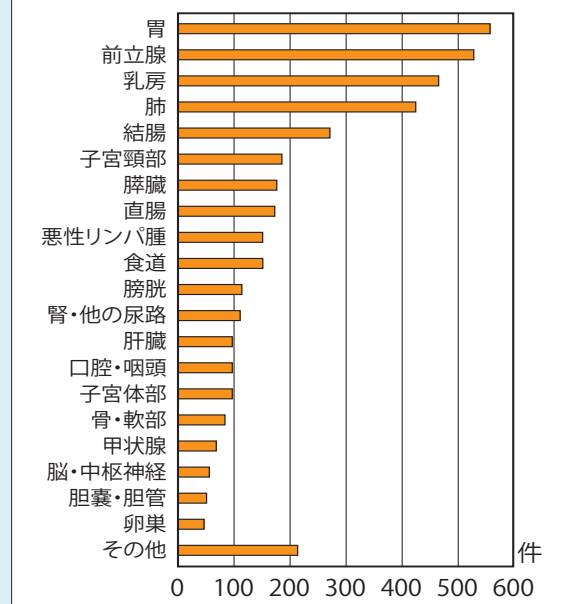
## 診療実績

### 院内がん登録（2014年症例） 診療情報管理室

1. 5歳年齢階級別・男女別登録数



2. 部位別登録数（上位20部位）



**院**内がん登録は、自院で診療した全てのがん患者さんの診断・治療情報を登録するものです。なお、全国のがん診療連携拠点病院および推薦病院の集計結果は、国立がん研究センター・がん対策情報センターで毎年公表されています。



# 初診担当医表

2016年2月1日現在

## 【予約受付時間】

月曜日～金曜日(祝祭日、年末年始を除く)  
9時～17時

診療科	月	火	水	木	金
消化器外科	池田 篤 外岡 亨 有光 秀仁	山本 宏 鍋谷 圭宏 早田 浩明 外岡 亨	滝口 伸浩 池田 篤 貝沼 修 小林 亮介 (奇数週) 知花 朝史 (偶数週)	永田 松夫 鍋谷 圭宏 滝口 伸浩	山本 宏 貝沼 修 早田 浩明 今西 俊介
消化器内科	傳田 忠道 廣中 秀一 鈴木 拓人 喜多絵美里	傳田 忠道 原 太郎 須藤研太郎	山口 武人 傳田 忠道 廣中 秀一 中村 和貴	傳田 忠道 原 太郎 廣中 秀一	中村 和貴 須藤研太郎 三梨 桂子 北川 義康
呼吸器外科	飯笹 俊彦		飯笹 俊彦		飯笹 俊彦
呼吸器内科	芦沼 宏典	板倉 明司 新行内雅斗 芦沼 宏典	吉田 泰司	板倉 明司 新行内雅斗 吉田 泰司	芦沼 宏典
乳腺外科	山本 尚人 佐々木巨亮	椎名 伸充 (担当医)	中村 力也 佐々木巨亮	椎名 伸充 (担当医)	中村 力也 佐々木巨亮
形成外科				徳元 秀樹 秋田 新介	徳元 秀樹
婦人科	大崎 達也	田中 尚武 鈴鹿 清美 (腹腔鏡手術) 井尻 美輪	大崎 達也	田中 尚武 鈴鹿 清美	大崎 達也
泌尿器科	小丸 淳 佐藤 陽介	植田 健 佐藤 陽介	竹下 暢重 篠崎 哲男	小林 将行 梨井 隼菱	深沢 賢 篠崎 哲男
腫瘍血液内科	熊谷 匡也 伊勢美樹子	辻村 秀樹 菅原 武明	熊谷 匡也 菅原 武明	熊谷 匡也 伊勢美樹子	熊谷 匡也 辻村 秀樹
脳神経外科	井内 俊彦	(担当医)	井内 俊彦 堺田 司	(担当医)	堺田 司
頭頸科	佐々木慶太 佐々原 剛 櫻井 利興	佐々木慶太 佐々原 剛 櫻井 利興		佐々木慶太 佐々原 剛 櫻井 利興	
整形外科	石井 猛 米本 司	石井 猛 岩田慎太郎		石井 猛	米本 司 岩田慎太郎 鴨田 博人
緩和医療科	秋月 晶子	秋月 晶子		秋月 晶子	秋月 晶子
精神腫瘍科	秋月 伸哉	秋月 伸哉		秋月 伸哉	秋月 伸哉
核医学診療部		戸川 貴史	久山 順平	久山 順平	戸川 貴史

## 【診療予約のご案内】

予約電話 043-264-5431 (代表番号) 地域医療連携室 予約担当

- \*当センターは予約制となっております。受診される場合は、電話で予約をおとり下さい。
- \*初めて受診なさる場合は、かかりつけ医など医療機関からの紹介状をお持ち下さい。

# 看護の現場から

## 皮膚・排泄ケア認定看護師の活動

皮膚・排泄ケア認定看護師 實方由美

**皮**膚・排泄ケア認定看護師の役割は、褥瘡（床ずれ）などの創傷管理および人工肛門・人工膀胱、失禁等の排泄管理、患者さん、ご家族の自己管理およびセルフケア支援です。

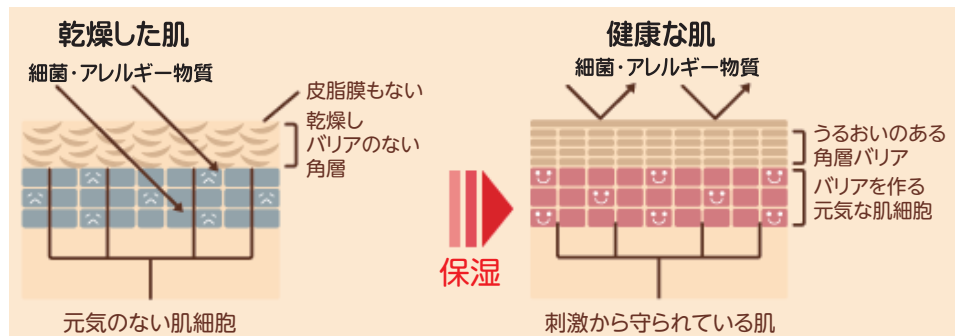
長時間の手術後や、終末期の患者さんは、自由に体を動かすことができず、褥瘡を形成することがあります。また、化学療法や放射線療法などの副作用で、皮膚に障害を受ける事があります。また、がんによって、人工肛門や人工膀胱など、排泄経路が変更となる患者さんもあります。このような患者さんやご家族が、治療前とできるだけ同じような生活に戻れるように、患者さんだけでなく、ご家族への支援もしております。人工肛門や人工膀胱にならなくても、病気の進行や治療の影響で便や尿が失禁状態になることもあります。そのような患者さんへは、日常生活の質ができるだけ保てるように、情報提供をしております。

現在私は、褥瘡の専従看護師として、褥瘡の予防と治療に携わり

ながら、人工肛門・人工膀胱の外来を担当しています。また、入院中に治癒しなかった創傷や、自宅で新たに発生してしまった創傷に関しても外来で対応しております。

皮膚の健康は体の健康と同様で、普段のケアが重要です。健康な皮膚の表面は弱酸性で適度な油分があり、外部の刺激から身体を守ってくれます。しかし、放射線療法や化学療法によって皮膚の健康は障害されます。障害された皮膚は乾燥し、さらに障害を受け易くなります。また、加齢によっても皮脂は減少し、皮膚は障害を受けやすくなります。空気が乾燥する冬だけでなく、汗や紫外線、花粉などのアレルギー物質から体を守るために、1年を通して皮膚のケアは必要です。

乾燥がひどいときは、ローションタイプの保湿剤を使用した後に、クリームタイプの油分の多い保湿剤を使用すると効果的です。また、手洗いや入浴後などは皮膚がしっとりしているうちにケアするとさらに効果的です。



池田模範堂オフィシャルサイト 冬の肌荒れかゆみ より引用 (一部変更)  
<http://www.ikedamohando.co.jp/fuyumuhi/dictionary/index.html#d12>

# がん患者さんのための 栄養相談会のお知らせ



がんの治療中は「何を食べていいかわからない」「何を作ったらいいかわからない」との声がよく聞かれます。また治療に伴う副作用（食欲不振・吐き気・下痢・便秘・味覚異常等）で食べられなくて困っている患者さんも多くいます。今回、千葉県内のがん患者さん、ご家族を対象とした栄養相談会を企画しました。がん治療中の栄養管理について、医療者（検査技師・薬剤師・管理栄養士・看護師・歯科医師・医師）からの講義・試食・個別相談を予定しています。千葉県がんセンターに受診してなくても栄養に関する相談ができますので、より多くの方にご参加いただけますようご案内します。（問合せ先：千葉県がんセンター栄養サポートチーム）

**開催日時** 3月12日 土曜日 午後2時～4時  
**開催場所** 千葉県がんセンター テレビ会議室

**がん患者さんのための 栄養相談会**

**【内容】**  
 ・講義 化学療法中の生活について（食事や検査データの見方 など）  
 ・試食 食べやすいもの調理実演、個別相談の時間も設けております。

**日時** 平成28年3月12日（土曜日）14時から18時まで  
**場所** 千葉県がんセンター・TV会議室  
**対象** がん患者さん ご家族 ほか  
**費用** 無料

千葉県がんセンターに連絡していない患者さんもどうぞお越しください！

途中入り自由でのご参加もお待ちしております！

主催 千葉県がんセンター栄養サポートチーム

# 第14回 県民公開セミナー報告

今年で第14回目を迎える県民公開セミナーを、平成27年10月18日(日)午後1時から京葉銀行文化プラザで開催いたしました。今回のテーマは「ここがすごい最新の抗がん剤事情」です。永田病院長によるあいさつの後、筑波大学医学医療系臨床腫瘍学の関根先生が「こんなに進歩した肺がんの抗がん剤治療」、通院化学療法室の荻田さんが「進歩した抗がん剤副作用対策」、前立腺センターの小丸先生が「前立腺がんの抗がん剤治療の進歩」、研究所の永瀬先生が「千葉県がんセンターが開発する薬と新薬が患者に届くまで」を講演いたしました。後半は、がん相談支援センターの中村さんによる「がんになったらまず相談」、パネルディスカッションでは座長を精神腫瘍科の秋月先生が、パネリストを講演者が担当して、参加者の皆様から寄せられた質問にお答えいたしました。また、会場ロビーでは患者さんの団体による医療関係の展示も行われました。

当日は天気にも恵まれ182名の方に御参加いただきました。来場者の方々から寄せられたアンケートには分かりやすかった、大変興味深かったとのお声をいただいた一方で、セミナーの運営・広報の面で率直な御意見もあり、今後の課題としていきたいです。



# 臨床研究総合センターシンポジウム報告

平成27年12月5日(土)13:00より千葉県がんセンター事務研棟2階大会議室にて平成27年度臨床研究総合センターシンポジウムが開催されました。臨床研究総合センターシンポジウムは平成23年から開催され今回で5回目の開催となります。今回は「臨床診断・バイオバンクをめぐる最近の話題について」をテーマとして、東京大学医科学研究所の村上善則所長、九州大学別府病院の三森功士病院長、千葉大学大学院医学研究院分子病態解析学講座の松下一之准教授という各分野で大変高名で精力的に活動されている先生方をお招きし、60人が参加する盛大な会となりました。当日はバイオバンク・大腸がん研究・基礎研究の3つのセッションに分け、計6名が最新の治療・研究の紹介を行いました。講演に加え、活発な質疑応答も行われ今後のがんの治療と研究の発展につながる貴重な会となりました。



**ご案内の交通**

**JR千葉駅から** 所要時間:約25分

千葉中央バス: 菅田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由)行乗車・千葉県がんセンター前下車

**JR鎌取駅から** 所要時間:約13分

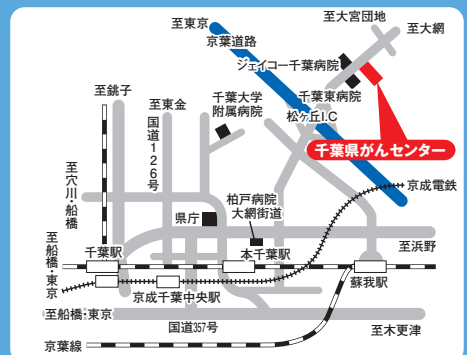
千葉中央バス: 千葉駅・蘇我駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

**JR蘇我駅から** 所要時間:約16分

千葉中央バス: 鎌取駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

**松ヶ丘I.Cから**

大網街道を大網へ向かって約2km右側



## 千葉県がんセンター

〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2  
TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680  
<http://www.pref.chiba.lg.jp/gan/>